

歯っぴいレター

2011.10

発行：さいとう歯科

〒272-0137

千葉県市川市福栄3-18-22

Tel : (047)399-8217

Fax : (047)399-8217

HP : <http://www.saito-dent.com>

神無月と神在月

10月は神無月(かんなづき)といえます。「かな」の「な」が連体助詞「の」と同じであることから、「神の月」が語源とも言われています。

旧暦の10月11日から17日の間、神々は出雲大社に集われ、翌年の縁結びのご相談をなします。この時、全国の神社が留守になるので「神無月」の字が用いられているのです。一方、神々がいらっしやる出雲では「神在月(かみありづき)」となります。

旧暦の10月10日夕刻7時、国譲り神話の舞台「稲佐(いなさ)の浜」で、神々をお迎えする神迎(かみむかえ)神事が行われます。その後、神々は出雲大社の本殿東西にある十九社にお泊まりになります。そして、7日間をかけて、神事(幽業、かみごと)、すなわち、運や縁と呼ばれる人生諸般の事などが決められるのです。

17日夕刻4時、本殿楼門の扉を神職が「お立ちー、お立ちー」と唱えながら三度叩きます。これを合図に神々は、出雲大社を去られるのです。

神々は、次に松江市の佐太神社に立ち寄られ、最後は斐川町の万九千(まんくせん)神社に向かわれます。

万九千神社では、新暦の11月26日、出雲神在祭最後の行事「神等去出(からさで)祭」が始まります。この日は露店が立ち、朝から大勢の参拝者で賑わいますが、神事が始まると皆一斉に引き上げます。神等去出の夜を忌み慎しむためです。日没時、拝殿の扉を宮司が「お立ちー」を唱えながら梅の小枝で三度叩きます。その瞬間、神々が一斉にお立ちになるのです。すると、突風が吹き荒れ、立ってられないほどになります。この風を「まんくせん荒れ」と言います。ちなみに「万九千」は、非常に多くのという意味で、神社の地番は「神立(かんだち)」です。

神様の結ばれたご縁を「ご神縁」といいます。時々あわてて三本が結ばれることもあるようですが、このご縁は恋愛ではありません。人生の良いご神縁が結ばれていると良いですね。

元島根県教育庁神社成立研究に関する研究会講師 篠原祐一

がんばろう!日本

・3.11



唾液と再石灰化～唾液のパワー

先月は、酸で歯が溶ける!酸蝕のお話しをしました。また、歯はむし菌菌の出す酸でも溶けますね。これがう蝕、つまりむし歯ですね。こんなことを踏まえて、さて、唾液にはちょっとビックリする力があります。それは、溶けたところを元に戻す、「再石灰化」です。テレビのCMなどで耳にすることがあるかもしれません。

唾液の役割

唾液は口の中でどんな役割を担っているのでしょうか?まずは1日1~1.5lといわれる唾液の総分泌量そのものです。結構量がありますね。唾液が十分分泌していれば、歯の表面が長く酸にさらされるのを防ぎます。しかし、分泌量が少ないと口が渴く...すると、歯の表面の酸を洗い流したりする唾液の恩恵を受けにくくなります。

他に、唾液には口の中をつねに中性に保とうとする作用があります。つまり、酸っぱい状態を元に戻そうとする力ですね。元に戻れば歯が溶けることはなくなる感じがしますよね。そして、再石灰化とは...

再石灰化



歯の表面をエナメル質といいます。歯を形作っているのは、カルシウム、リン、フッ素などです。そして、これらは唾液の中にカルシウムイオン、リン酸イオン、フッ化物イオンというイオンの形で含まれています。このため、唾液のことを「液体のエナメル質」というように表現しています。これらのイオンは、唾液の中にはこれ以上溜めることのできない状態(過飽和といいます)にあります。

例えば、食塩や砂糖を水に溶かそうとして、ある一定以上の量を水の中に入れると溶けきらずに水の底に沈殿するようになってきますね。これが過飽和です。歯の表面が酸性になると、カルシウムイオン、リン酸イオンなどが歯の外に出てきますが、歯のまわりが中性になって行くと、唾液の中のこれらイオンが過飽和のため、いわば沈殿するような状態になり、一旦歯の外に出たイオンは、何と歯に戻って行くのです。これが、再石灰化。溶けたところが元に戻った!修復完了!となる訳です。

唾液も口から出てくると、「きたない!」なんてあまり良いイメージがありませんが、歯を守るため、ずいぶんと役に立っている訳ですね。

参考引用:カリエスコントロール 脱灰と再石灰化のメカニズム

飯島洋一 熊谷崇著
医歯薬出版株式会社